

いいだ未来デザイン2028 小戦略（具体的な取組） 評価シート〔常任委員会〕

			29年度 小戦略の評価
基本目標	番号	小戦略名	【評価の視点】 ①具体的な取組は良かったか（成果が評価できるか） ②取り巻く状況の変化や今後の変化に対応できているか ③課題認識はあっているか ④今後の方向性はあっているか
基本目標 8 新時代に向けた これからの地域 経営の仕組みを つくる	8-①	ふるさとパワー アップ! 20地区 の個性を輝かせる (20地区「田舎へ 還ろう戦略」 支援事業)	【評価できること】 ・ふるさと納税の取組及び生活支援コーディネーターの活用(湊) ・地域課題の解決のため、地域おこし協力隊が力を発揮している。(木下容) ・地域ファン拡大に向けた具体的な取り組みが始まってきたこと。(木下徳) ・20地区応援隊のふるさと納税を創設したこと。(木下徳) ・ふるさと納税を原資とした交付金の交付→努力すれば成果として返ってくる。(木下克) ・今後の課題の中で地域活力を維持増進させるための住民主体の戦略が書かれている(木下克) ・「田舎へ還ろう戦略」のために、研修会等の開催により、支援機能を高めたこと。(井坪)
			【改善・修正が必要な点】 ・観光課、福祉課等の連携は大切である(湊) ・地域おこし協力隊員の中途での離脱が気になる。理由をしっかりと把握し、フォローすべき内容ならば、きちんと対処する必要がある。(木下容) ・取り組みは始まったが、今後は具体的な事例を増やすことが重要となる。移住・定住につながる交流人口・関係人口の拡大に向けて何をしていくか、そのメニューを増加させるためにどう取り組むかをもっと検討すべき。(木下徳) ・ふるさと納税の297,000円が成果で特徴的な事例になるのか疑問。見直した方が良いと思う。(後藤)
			【新たな視点で追加すべき取組】 ・ふるさと納税の取組みをステップアップの構築に取り組みたい(湊) ・「田舎へ還ろう戦略」は、他自治体も必死で取り組んでいる。飯田らしさをしっかりと打ち出し、差別化を図りたい。(木下容) ・移住定住について、空き家活用において、農地付き空き家が有れば、就農希望者へ優先的に情報発信するシステムの構築(小林) ・地域でやっていけそうなメニューを全市的に検討すべき。(木下徳) ・「集落支援員」を住民自治が危険になっているところに配置すべき(後藤) ・やはり20地区に「区」単位まで支援できる職員を配置すべき(後藤) ・住民主体の動きを作り出す手法・動機付け(木下克)
基本目標 8 新時代に向けた これからの地域 経営の仕組みを つくる	8-②	地域課題に対応す るための事業体の 立ち上げと運営の 支援	【評価できること】 ・地域課題に対しては各センター長を中心に地域の皆さんとのコミュニティが取れている点(湊) ・地域おこし協力隊の活動が、民間企業の協力を得るなどして、次第に実を結び始めている。活動できる人材を発掘し、中山間地以外にも広げてほしい。(木下容) ・千代地区で地域おこし協力隊導入を契機に、地域における事業体設立を視野に入れた考え方が出てきている(塚平) ・千代地区のランナーズビレッジ構想、酒の試作品、遠山地区のゲストハウス・シェアハウスや三穂地区の取組みが始まったこと。(木下徳) ・地域の活性化に努力している住民に敬意(後藤) ・ランナーズビレッジ構想の実現に向けたモデルコースの改定(木下克) ・地域おこし協力隊導入を契機に民間企業との連携(木下克) ・「一年一点型」の共通課題を設定したこと。(井坪)
			【改善・修正が必要な点】 ・地域おこし協力隊の配置のない多くの地区での展開が必要。(木下徳)
			【新たな視点で追加すべき取組】 ・人口減少傾向を予防するための具体的に組み込まれたい(湊) ・喜久水酒造との連携は良い事例だと考える。今後も地域課題の解決は、地域の中だけに留まらず、理解者を外部に求めながら、地域としての最大限の支援を望みたい。(木下容) ・地域を興せるのは「外からの血」を取り入れる事が有用な手段の一つと捉え、地域おこし協力隊に限らず外部の目を持ち合わせる人物が事業体立ち上げの核となれるよう土壌を整備していく。(塚平) ・今後の方向性の中で、地域経営にむけた内部、外部への国、行政の補助金制度等の分かりやすい説明(小林) ・地域課題解決のためならば、福祉の共助部分もこの小戦略の中に加えてはどうか。(木下徳) ・地域発展のための事業体立ち上げと運営ではないか。(木下徳) ・9-②市民活動団体とこの事業体との関係。市民活動団体が事業体に移行する可能性についての検討。(木下徳) ・全地区に地域おこし協力隊は不可能 → 米原市で学んだ職員担当制度を応用し、形は違うが協力隊を担当職員と置き換えれば、地域おこし協力隊に近い仕組みができるかも(木下克) ・地域の取組みがビジネスに結び付くケースを想定し、その支援策として、国・県等の助成金のみならず、市の自主財源を充てる取り組みも検討されたい。(井坪)

いいだ未来デザイン2028 小戦略(具体的な取組) 評価シート [常任委員会]

基本目標	番号	小戦略名	29年度 小戦略の評価
基本目標 8 新時代に向けた これからの地域 経営の仕組みを つくる	8-③	地域自治を守り育 むための仕組みづ くり	<p>【評価の視点】</p> <p>①具体的な取組は良かったか (成果が評価できるか)                  ②取り巻く状況の変化や今後の変化に対応できているか                  ③課題認識はあっているか                  ④今後の方向性はあっているか</p> <p>【評価できること】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・所長会PJ分科会において検証されている点(湊)</li> <li>・組合加入促進コーディネーターの活動により、加入者拡大が図られたこと。(木下容)</li> <li>・所長会PJの地区事業見直し分科会で、4分野14項目の改善提案が整理されたこと。成果はこれからだと思うが、地道に活動を続けてほしい。(木下容)</li> <li>・地域と担当課の関係が希薄な部分を認識され、自治振興センター長の両者のハブ的機能強化の必要性を捉えられている点。(塚平)</li> <li>・組合未加入者アンケートが竜丘地区で先行して実施され、頂いた意見を基に地区内で改善できる部分への検討が開始された件。(塚平)</li> <li>・地域協議会会長研修会講師の有識者らより、飯田の自治組織制度が高く評価された、という点。(塚平)</li> <li>・活発な自治体活動ができている(小林)</li> <li>・組合加入の促進において促進コーディネーターの実績(H29 年度活動件数499, 内加入248件)は評価できる。(木下徳)</li> <li>・担当課と地区委員会との関係に課題を認識している点。(木下徳)</li> <li>・住民は自立心持って活動している。(後藤)</li> <li>・組合加入コーディネータを中心とした活動展開(木下克)</li> <li>・所長会PJ 地区事業の見直し分科会の実施・運用(木下克)</li> <li>・顕在化している3つの課題に、具体的に取組んだこと。(井坪)</li> </ul>
			<p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域協議会の機能向上を進めるため役割の明確化を図る(湊)</li> <li>・地域自治組織が導入されてから10年が経過したことから、検証すべき時期であると考え。特に、地域協議会のあり方について、しっかりとした議論が必要。(木下容)</li> <li>・まちづくり委員会が関わる行政関連業務の削減・見直し工程について、回覧等を通じた市民への周知・要望聴き取りが必要ではと考える。(塚平)</li> <li>・また自治組織の疲弊度や満足度を検証する観点からも、実態把握の活動の中で市職員や自治振興センター長へのアンケートのみならず、市民・区民からの直接的な調査活動もできる仕組みを検討されたい。(塚平)</li> <li>・まちづくり委員会内の各部と市の担当課の課題等は地域自治区に置くことになっている地域協議会(地方自治法)のあり方と密接な関係があると思う。まちづくり委員、地域協議会と市との役割分担を早急に確認すべきと考える。(木下徳)</li> <li>・住民の自立心を逆手に取ったような市役所の業務委託の見直し。(後藤)</li> <li>・役員のなり手不足、自治活動の過負荷(仕事量との関係)、自治会役員が悩んでいる点の掘り起こし。各自治会の長所、短所の比較によるいいとこどり(木下克)</li> </ul>
			<p>【新たな視点で追加すべき取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・愛知県尾張旭市を参考に、市のポイント付与制度を考え組合加入促進を図る取組を検討されたい(例:あさひ健康マイスター手帳の作成)(湊)</li> <li>・地域自治組織が導入されてから10年が経過したことから、検証すべき時期であると考え。特に、地域協議会のあり方について、しっかりとした議論が必要。(木下容)</li> <li>・組合未加入の問題を、継続的に市民の意識へ訴え続ける事が大切であり、意識づけの強化と問題提起がされ続けていく土壌の構築を検討願いたい。(塚平)</li> <li>・組合加入について、加入のための、ある程度の強制力などの方策の研究(小林)</li> <li>・地域自治を守るため自治振興センターの機能を強化する。(職員配置の充実)(後藤)</li> <li>・就労年齢が高くなったことによる自治会運営との関係、調査(木下克)</li> <li>・基本目標11と連携し、「防災もきちんと考えていくまちづくり」を推進されたい。当地域は潜在的には水害が起こる地域である。近年、極端な気象現象が起こりやすい気候のなかで、幸せに暮らすための工夫を重ねるまちづくりを、まちづくり委員会、自主防災組合が取り組めるような仕組みを検討されたい。(井坪)</li> </ul>

いいだ未来デザイン2028 小戦略(具体的な取組) 評価シート [常任委員会]

基本目標	番号	小戦略名	29年度 小戦略の評価
基本目標 8 新時代に向けた これからの地域 経営の仕組みを つくる	8-④	中山間地域をもっ と元気にしてみま いか	<p>【評価の視点】</p> <p>①具体的な取組は良かったか (成果が評価できるか)</p> <p>②取り巻く状況の変化や今後の変化に対応できているか</p> <p>③課題認識はあっているか</p> <p>④今後の方向性はあっているか</p> <p>【評価できること】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一年一点の重点型(ひと・もの)経済の活性化に資する事業を展開している点(湊)</li> <li>・よこね田んぼのオーナーが増加したこと。地道な努力が形になって表れつつある。(木下容)</li> <li>・中山間地域の共通課題解決に向けて、1年1点の重点事業での取り組み。(木下容)</li> <li>・千代地区における、地域と地域おこし協力隊の連携による地域資源活用への取組が活発化されている事例等。(塚平)</li> <li>・遠山地域での課観光資源発掘に向けた取り組み(小林)</li> <li>・千代地区の地域おこし協力隊の活動(小林)</li> <li>・概ね評価(木下徳)</li> <li>・遠山地域、竜東地域、三穂地域など住民の努力で取り組んでいる。(後藤)</li> <li>・ランナーズレッジのモデルコース → 結果はともかく挑戦した意欲を評価(木下克)</li> <li>・各地区の観光素材の抽出、地域との連携、観光公社等との連携(木下克)</li> <li>・地域おこし協力隊の導入にあたっては、各地区の課題解決に向けた地区の方針と受け入れ態勢が整った場合に採用を行っていくという方針は、的を射ている。(井坪)</li> </ul>
			<p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7地区の魅力発見隊を創設し、又地域おこし協力隊の人員を増加する取り組みを(湊)</li> <li>・小さなことだが、小戦略名の「してみまいか」には多少の違和感がある。方言を使った点は素晴らしいと思うが、「みまいか」は、「ちょっとやってみようか」の感じで、強い意志が感じられない。「元気にしまいか」の方が妥当ではないか。(木下容)</li> <li>・基本的に8-②「地域課題に対応するための事業体の立ち上げと運営の支援」と重なる小戦略となっている。(木下徳)</li> <li>・観光振興策が主に取り組まれている。住民の利益につながっているか検証する必要あり(後藤)</li> <li>・地域おこし協力隊が退任した後も継続できる仕組みづくり(木下克)</li> </ul>
			<p>【新たな視点で追加すべき取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少での7地区共通なる振興策の検討(湊)</li> <li>・中山間地域発展なくして「飯田市の全体の発展なし!」と思われる新たな発想を(湊)</li> <li>・地域おこし協力隊だけでなく、飯田市民の中から地域活性化の核となる住民の掘り起こしと支援(小林)</li> <li>・特になし。地域おこし協力隊員とともに更に進めていただきたい。(木下徳)</li> <li>・検討中(後藤)</li> <li>・地域の活性化に繋がる具体亭を記すと他地区の参考となる。(木下克)</li> </ul>

いいだ未来デザイン2028 小戦略(具体的な取組) 評価シート [常任委員会]

			29年度 小戦略の評価
基本目標	番号	小戦略名	【評価の視点】 ①具体的な取組は良かったか (成果が評価できるか) ②取り巻く状況の変化や今後の変化に対応できているか ③課題認識はあっているか ④今後の方向性はあっているか
基本目標 9 個性を尊重し、 多様な価値観を 認め合いなが ら、交流する	9-①	誰もが安心して地 域で活躍できる、 ひと・まちづくり	【評価できること】 ・「男性にとっての男女共同参画の推進」「ワークライフバランスの推進」を重点においている点(湊) ・男女共同参画の重点項目に、「男性にとっての男女共同参画の推進」との視点を取り入れたこと。男女共同参画は、女性だけの行動ではなく、両性の問題であることが明確になった。(木下容) ・長年続いた「みんなの生活展」終了の後、新たな試みとして、「くらしの学習交流会」が実施できたこと。今後の展開はまだ未知数ではあるが、女性団体の活動や発表・交流の場として期待したい。(木下容) ・第6次飯田市男女共同参画計画が市民・企業へのアンケート調査等を踏まえて策定された。(塚平) ・やっていることは概ね評価。(木下徳) ・「くらしの学習交流事業」の取組み → 市民団体と協働で自主的に学び合う力の醸成。(木下克) ・地域の事業所へのアンケートの実施により、ワークライフバランスに対する事業所の状況を把握できたこと。(井坪)
			【改善・修正が必要な点】 ・消費生活をめぐる諸問題は、特殊詐欺の問題・インターネットやSNS利用での被害・食品ロス削減問題・など、多岐にわたっている。しっかり取り組むためには、男女共同参画課の増員は必要ではないか。(木下容) ・ワークライフバランスの改善は事業所だけに依存するのではなく、働く側でできることを検討する点。(木下徳) ・一般女性へのPR → 地域活動へ参加することが当たり前と考えられる取組み方の工夫(木下克)
			【新たな視点で追加すべき取組】 ・女性の活躍が期待できる仕組みの構築(湊) ・女性のボランティア活動(赤十字奉仕団)等には限界がある。そのための支援と対応策を検討(湊) ・「飯田市版15・15運動」が始められたが、食品ロスの削減は宴席での運動に留まらず、飲食店との連携で、「小盛メニューの提供」・「残り物の持ち帰り」・「食べ残されない献立の研究」・それらを実施する店舗には、市の認定書を出すなど、色々な取組みが考えられる。今後の更なる展開が必要。(木下容) ・旧態依然と地域や家庭に残る女性の負の役割意識の払しょくに向け部署横断的に取り組まれる指針を示されたい。(塚平) ・ゴミ分別における、誰でもが分かりやすいゴミ分別アプリの研究と活用(小林) ・成人年齢引き下げによる、高校生等の対象年齢層への消費者教育の実施(小林) ・働く側のテレワーク型就労、パラレルキャリアのあり方について検討を始めるべきと考える。自立した生き方、幸福とを感じる社会のためにも重要。(木下徳) ・子育てを両親が協力して取り組むような指導を子どもが産まれる前から行うような事業を望む(後藤) ・女性の参加意欲を上げる工夫(木下克)
基本目標 9 個性を尊重し、 多様な価値観を 認め合いなが ら、交流する	9-②	市民活動団体のパ ワーアップ!	【評価できること】 ・コーディネート専門委員では「こちらから出かけていく」相談支援活動を開始した点(湊) ・相談支援活動の実施、コーディネート専門委員会の立ち上げなど、支援体制の強化がなされた。(木下容) ・ムトスまちづくり委員会の中にコーディネート専門委員会が設置され、相談支援体制が開始された点。(塚平) ・市民活動団体等へのアンケートが実施され、回答内容に基づく支援体制の検討が開始された点(塚平) ・コーディネート専門委員会の立ち上げと、「こちらから出かけていく」相談支援活動の開始(小林) ・コーディネート専門委員会の立ち上げ。(木下徳) ・市民がボランティアで取り組んでいる(後藤) ・「コーディネート専門委員会」の立ち上げ。(木下克) ・既存の市民活動団体等の中に活動の継続に苦慮している団体がある。その支援 → 議会の意見を素直に受け対策した前向きな姿勢。(木下克) ・「コーディネート専門委員会」の立ち上げ。(井坪)
			【改善・修正が必要な点】 ・コーディネート専門員を増加して20名にしてみてもは(湊) ・既に活発に活動をしている団体へのさらなる支援。(木下徳) ・市民活動に参加する市民増につながる支援。(木下徳) ・各地区により抱えている問題が違う。その地区にあった改善・工夫の取組み(木下克)

いいだ未来デザイン2028 小戦略(具体的な取組) 評価シート [常任委員会]

			29年度 小戦略の評価
基本目標	番号	小戦略名	<b>【評価の視点】</b> ①具体的な取組は良かったか (成果が評価できるか) ②取り巻く状況の変化や今後の変化に対応できているか ③課題認識はあっているか ④今後の方向性はあっているか
基本目標 9 個性を尊重し、 多様な価値観を 認め合いなが ら、交流する	9-②	市民活動団体のパ ワーアップ!	<b>【新たな視点で追加すべき取組】</b> ・市民活動団体へ、継続的に活動できるための支援の拡大を(湊) ・市民活動をする団体は自主的にやるものだと思う。市の係わり方は公益性、福祉的等々の視点を持った支援の仕方を検討。(木下徳) ・市民活動団体の経営改善相談(後藤) ・男女共同参画は大事。ただこれを推進していくためには女性の参加意欲を向上させないと表面だけの活動となる。一般女性の参画を向上させる具体的対策が必要(木下克) ・各種団体の組織力の低下対策 → 婦人会、赤十字奉仕団等組織力低下で女性団体連合会となったり高齢者クラブが連合会から連絡協議会になったり、消防団の定員割、赤十字奉仕団の定員割、なり手不足、壮年団の団員減少 これらの対策(木下克)
基本目標 9 個性を尊重し、 多様な価値観を 認め合いなが ら、交流する	9-③	共生のためのユニ バーサルデザイン	<b>【評価できること】</b> ・地域の集会所施設を整理していることが評価できるが、一方消滅する自治会もあることを認識が必要(湊) ・バリアフリー化に関する調査の実施。(木下容) ・平成24年の整備事業補助金の見直しを行い、その他支援内容の充実(小林) ・集会施設のバリアフリー化等へのアンケートの実施(小林) ・集会施設のバリアフリー化について過去10年間、今後の整備に関してアンケートを実施したこと(木下徳) ・バリアフリー化の推進(木下克)
			<b>【改善・修正が必要な点】</b> ・下限が200万円以上であるためバリアフリー他を含めた少額な施設改修に対する助成ができないとなっているが、可能にするための対応を検討されたい(下限を200万円よりさげる)(湊) ・高齢化社会を迎え、集会施設のバリアフリー化は避けては通れない問題。補助率の検討が必要。(木下容) ・小規模集会所 集会施設整備補助制度の事業費下限の200万円を見直し、小規模集会所に対する助成も可能にされる方向性を検討されたい。(塚平) ・バリアフリー化のアンケート結果をどう改修に結びつけるかという点。(木下徳)
			<b>【新たな視点で追加すべき取組】</b> ・施設改修に対する補助金のあり方、考え方の見直しとアンケート結果からの住民ニーズへの対応(小林) ・集会施設バリアフリー化の指針づくり。(木下徳) ・施設改修補助率増額検討、補助制度事業費下限額の見直し検討(後藤) ・集会施設の大・小による公平化(木下克)
基本目標 9 個性を尊重し、 多様な価値観を 認め合いなが ら、交流する	9-④	多様性を地域に活 かす言語バリアフ リー	<b>【評価できること】</b> ・多文化共生の地域づくりのため、役割を明確にしている点(湊) ・言語バリアフリー化への対応のために、やさしい日本語の使用を進め、市役所内部の連携を図ろうとする姿勢。今後の取り組みに期待する。(木下容) ・「やさしい日本語」の市民への周知のため、多文化共生市民会議における理解促進活動に努められるという点。(塚平) ・「やさしい日本語」の使用による意思疎通を基本とする(小林) ・高校進学を希望する外国人生徒のほぼ全員が進学(小林) ・医療通訳制度(木下徳) ・母語支援だけでなく多様な取組みの推進 → やさしい日本語の推進(市民がわかりやすく)(木下克) ・多言語支援センターの設置運営に取り組んだこと。(井坪)
			<b>【改善・修正が必要な点】</b> ・日本語が理解できることだが、目的は在住する外国人がストレスなく、地域に係わりをもって暮らしているかという視点。(木下徳)
			<b>【新たな視点で追加すべき取組】</b> ・今後は外国人住民が増加するので、ぜひ人手不足解消のための施策の取組みを(湊) ・「やさしい日本語」の使用による意思疎通を基本としているが、災害時等の緊急時は対応に限界があるので、「ピクトグラム」を用いた世界共通表示、視覚で認識できることへの対応策の構築(小林) ・翻訳アプリの積極的導入。(木下徳) ・特になし(後藤) ・人口減少の時代 → 人口維持のため多文化共生は大事でその対策として文化の違いをどう同化させるかの工夫(木下克)

基本目標	番号	小戦略名	29年度 小戦略の評価
基本目標 10 豊かな自然と調和し、低炭素な暮らしをおくる	10-①	環境意識を醸成する人づくり地域づくり	<p>【評価の視点】</p> <p>①具体的な取組は良かったか (成果が評価できるか)</p> <p>②取り巻く状況の変化や今後の変化に対応できているか</p> <p>③課題認識はあっているか</p> <p>④今後の方向性はあっているか</p>
			<p>【評価できること】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな環境学習の機会の創出及び市民の環境意識を高めている点(湊)</li> <li>・ごみの分別のための環境学習会を数多く行ったことで、新体制にスムーズに移行できた。(木下容)</li> <li>・環境アドバイザーの環境学習や活動を評価する。地域や学校へのPR、をさらに進めてほしい。(木下容)</li> <li>・「いいだ型自然保育」の取り組み開始について、子育て支援課の側面的な支援を環境課が行う事(小林)</li> <li>・いいだ安全安心メールでの環境に関する緊急情報の発信(小林)</li> <li>・学習会等の開催。(木下徳)</li> <li>・環境アドバイザーの取り組み(後藤)</li> <li>・環境意識を醸成する、人づくり、地域づくり → 表題は評価(木下克)</li> <li>・環境課の子育て支援課への側面的支援 → 積極的な連携は大事(木下克)</li> </ul> <p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・信州やまほいくに関しては子育て支援課としっかり連携をとって「いいだ型自然保育」の取り組みを中心に推進されたい(湊)</li> <li>・昨年の施策評価等に対する提言における「日常的な環境負荷低減活動展開」への評価にて、成果指標的にはA評価(最上ランク)だが、環境モデル都市として大枠で見るとポイ捨てが多いのでB、の評価であった。その評価と提言が戦略内で全く位置づけられていない。(塚平)</li> <li>・不法投棄についての課題解決へ向けた方策の強化(小林)</li> <li>・SDGsへの市民の浸透。(木下徳)</li> <li>・ポイ捨て条例を制定しているが、一向にポイ捨ては減っていない。その具体的取組、仕組みづくり(木下克)</li> </ul>
			<p>【新たな視点で追加すべき取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校での環境学習については、モデル的に取組みとして、ユネスコ・エコスクール加盟を目指して、遠山地区のESD等を活用し重点的充実を図られたい(湊)</li> <li>・不法投棄・ゴミのポイ捨て対策の戦略への位置づけをいただきたい。(塚平)</li> <li>・いいだ安全安心メールでの環境に関する緊急情報の発信については評価するが、市民が思う必要な環境情報の発信にも力を入れて頂きたい(ゴミ分別アプリは前向きに検討するという事なので、市民ニーズに合ったものの提供を検討してもらいたい)(小林)</li> <li>・アダプトシステム導入の検討。(木下徳)</li> <li>・特になし(後藤)</li> <li>・ポイ捨てをしない意識醸成。各自の意識、地域の意識醸成(木下克)</li> </ul>

いいだ未来デザイン2028 小戦略(具体的な取組) 評価シート [常任委員会]

基本目標	番号	小戦略名	29年度 小戦略の評価
基本目標 10 豊かな自然と調和し、低炭素な暮らしをおくる	10-②	再生可能エネルギーを進める持続可能な地域づくり	<p>【評価の視点】</p> <p>①具体的な取組は良かったか (成果が評価できるか)</p> <p>②取り巻く状況の変化や今後の変化に対応できているか</p> <p>③課題認識はあっているか</p> <p>④今後の方向性はあっているか</p>
			<p>【評価できること】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域環境権条例により地域づくりに大いに貢献している点。また上村小水力発電事業が認定されたこと(湊)</li> <li>再生可能エネルギー活用の認定事業が、太陽光発電のみでなく、新たに上村の小水力発電事業が認定されたこと。今後、さらに研究を進め、色々な活動で持続可能な地域づくりに努めてほしい。(木下容)</li> <li>地域環境権を行使した小水力発電事業である小沢川小水力発電事業が認定事業として登録され、取組が進められた点。(塚平)</li> <li>小沢川の小水力発電事業(小林)</li> <li>再エネを活用した地域環境権条例の認定事業事例が(平成25年条例施行後10件)増やせたこと。(木下徳)</li> <li>地域環境権(後藤)</li> <li>小沢川小水力発電事業にみる地域一体となった低炭素対策(木下克)</li> <li>上村小水力発電事業の実現に粘り強く取り組んだこと。(井坪)</li> </ul>
			<p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>リニア時代に向けた低炭素強化街区の構築(湊)</li> <li>市内総電力のうち再エネの割合が何%なのかという視点が重要。(木下徳)</li> <li>飯田市ではそれを100%を目指すかどうかを議論する。(木下徳)</li> <li>地域環境権の行使を水力や木質バイオマスへ拡大を(後藤)</li> </ul> <p>【新たな視点で追加すべき取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>木質バイオマスによるエネルギーの供給システムを活用し、実現可能にするための積極的取組を(湊)</li> <li>太陽エネルギー利用は国の制度が変わり、新たな展開を迎えた。売電が儲からないから蓄電システムへ移行するのではなく、積極的な取組みとしての蓄電システムへの取組みが大切。市民に対する啓発と支援に取り組んでほしい。(木下容)</li> <li>耐用年数の過ぎた太陽光発電機器の後処理を検討されたい。(塚平)</li> <li>小沢川の小水力発電事業は全行的に注目を浴びていることから、飯田の他地域へ積極的に小水力発電事業を展開し、飯田市がパイオニア的な存在を目指しながら、今後の再生可能エネルギー事業拡大へ市民とともに発展を目指す(小林)</li> <li>企業誘致の視点。RE100などに参画する企業が国内にも出てきている。飯田市がその電力を100%を再生可能エネルギーでまかなえるならば、それら企業の誘致に有効ではないか。(木下徳)</li> <li>FIT制度の買い取り価格が低下傾向にあるため、事業性の確保と今後の見通し(木下克)</li> <li>家庭用蓄電池の普及のために、初期投資を軽減する施策を講じること。(井坪)</li> </ul>

			29年度 小戦略の評価
基本目標	番号	小戦略名	【評価の視点】 ①具体的な取組は良かったか (成果が評価できるか) ②取り巻く状況の変化や今後の変化に対応できているか ③課題認識はあっているか ④今後の方向性はあっているか
基本目標 10 豊かな自然と調和し、低炭素な暮らしをおくる	10-③	リニア時代を見据えた低炭素な地域づくり	【評価できること】 ・再生可能エネルギー及び未利用エネルギーを活用した。又リニア駅周辺→駅舎のデザインを検討している点(湊) ・渋谷区との交流が地道に続けられていること。(木下容) ・リニア駅周辺整備エネルギー自立可能性調査が実施され活用案が策定され、これが環境都市力発信へのモデル的街区となりうるという点。(塚平) ・環境文化を都市間交流推進のツールと捉えられた認識と方向性。(塚平) ・ネット・ゼロ・エネルギーハウスの飯田モデルの検討(小林) ・飯田版ZEH検討をはじめたこと。(木下徳) ・リニア駅周辺整備基本設計への反映に向けてエネルギー活用方針案を策定したこと。(井坪)
			【改善・修正が必要な点】 ・渋谷区との交流拡大(湊) ・飯田版ZEHの考え方は住宅のみならず、公共施設、工場等すべての建築物に応用していくべき。(木下徳) ・リニア駅周辺のエネルギー自立はいつ決めたのか、エリアを決める前に費用負担をどこで賄うか明らかにすべき(後藤) ・当地域にふさわしい建築仕様を策定し普及する仕組みづくり → 大工、左官等職人が減少する中で当地域にふさわしい建築仕様が可能かどうか(木下克) ・低炭素対策はリニア駅周辺整備区域だけの問題ではない。市民全戸が目指す課題だ(木下克)
			【新たな視点で追加すべき取組】 ・都市と地方のつながりを連携強化(例:横浜市、さいたま市等)(湊) ・渋谷区との「みどりの環」交流が8年目を迎えた。他地区とも同じような交流ができるよう計画できないか。また、10周年が近づいていることから、内外にアピールできるようなイベントの計画を。(木下容) ・飯田版ZEHの取り組みは4年目を迎えた。飯田モデルの実現に向けて、しっかり取り組まれない。(木下容) ・リニア駅周辺を環境モデル街区となる事を見据え、市全体のエネルギーパーク化の可能性を検討されたい。(塚平) ・リニア駅周辺整備におけるネット・ゼロ・エネルギーハウス(飯田版ZEH)の今後の方向性のあり方と、市民への共通認識構築のための情報発信(小林) ・リニア駅周辺の低炭素化はこの周辺をすればいいのではなくて、全市的な取組の象徴とするべきである。(木下徳) ・飯田版ZEHの構築の充実に向けて、関係機関の幅を広げた取組みを期待したい。(井坪)
基本目標 10 豊かな自然と調和し、低炭素な暮らしをおくる	10-④	地域ぐるみで取り組むエコ活動・エコライフの推進	【評価できること】 ・環境一斉行動が、企業との連携で着実に進んでいること。(木下容) ・「南信州いいむす21」の改定に向けて作業が進められていること。(木下容) ・地域ぐるみISO研究会、いいむす21などの支援は評価する。(木下徳) ・事業所の取り組み(後藤) ・南信州いいむす21の取り組み。特に「保育園いいむす21」「学校いいむす21」(木下克)
			【改善・修正が必要な点】 ・南信州いいむす21の改訂版を完成させ「学校いいむす21」とつなげる(学校との連携)(湊) ・環境マネジメントシステムの取り組みについて、中小企業へのアプローチの強化、経営上のメリットは何か、また持続可能な社会の構築と、社会的責任の両方の認識をしてもらうためのセミナー等の実施(小林) ・市民の暮らしが低炭素にできるために、その意識を醸成することがこの小戦略の目的だが、いいむすを広めるだけでなく、他にも有効な手段を検討すべき。(木下徳) ・中小の事業所が、企業としての取組みにインセンティブが働くような取組みが不足している。(井坪)
			【新たな視点で追加すべき取組】 ・企業へ対するCSRの理念周知に向けた取り組みを強化されたい。(塚平) ・年3回の環境一斉行動(ノーマーカーデー)の取り組みを、低炭素な交通形態と公共交通の利便性向上へ向けた取り組みへと昇華させられるような形に進化されたい。(塚平) ・中小企業の社長(トップ人材)への環境意識向上のためのセミナーの実施(関連企業でモデル企業的人たちとの交流等、身近な存在からのアピール活動)(小林) ・中小企業における省エネ診断の実施(シュミレーションの実施で現実を見据えることによる取り組みの強化)(小林) ・SDGsへの取組と市民への浸透。(木下徳) ・事業所の低炭素化の取り組みをさらに支援することと、環境改善活動する事業所数をさらに増やす取組みを望む(後藤) ・いい事は多様な分野へ積極的に拡大し、市も市民も一体となって取り組む仕組みづくり(木下克)



いいだ未来デザイン2028 小戦略(具体的な取組) 評価シート [常任委員会]

			29年度 小戦略の評価
基本目標	番号	小戦略名	【評価の視点】 ①具体的な取組は良かったか (成果が評価できるか) ②取り巻く状況の変化や今後の変化に対応できているか ③課題認識はあっているか ④今後の方向性はあっているか
基本目標 10 豊かな自然と調和し、低炭素な暮らしをおくる	10-⑤	ユネスコエコパークから広がる森と動植物の保全	【評価できること】 ・日本ジオパーク中部ブロック大会を遠山郷で開催した。(木下容) ・日本ジオパーク中部ブロック大会を遠山郷で開催したこと。(木下徳) ・環境保護団体の取り組み(後藤) ・安心安全のまちづくりの原点は豊かな森づくりにあります。固有種や希少動植物を保護しなければならない状況は、自然が破壊されつつあることを意味します。したがって豊かな森づくりの取組みは評価(木下克)
			【改善・修正が必要な点】 ・林業に今以上の力を入れていただきたい。県民森林税や森林環境譲与税の積極的活用(湊) ・南アルプスの更なる魅力の発信と、環境保全、観光活用の強化(小林) ・ユネスコエコパークの南アルプスを通じて近隣、あるいは県境を超えた地域といかに交流できるかという視点。(木下徳)
			【新たな視点で追加すべき取組】 ・森林整備を中心に都市部住民と地域住民との交流拡大。南アルプスエコパーク・ジオパークの取組み強化(県・国との連携強化)(湊) ・森づくりには、地道な息の長い取り組みが必要。市民と情報共有を図るためにも、普及・啓発活動にもっと力を入れてほしい。(木下容) ・今後、配分される森林環境譲与税(仮称)の有効活用の検討。(木下徳) ・中高生などの参加を募るなどしたらどうか(後藤) ・豊かな森づくりは短年度ではできません。長期ビジョンを立てて地道に取り組む工夫を(木下克)
基本目標 10 豊かな自然と調和し、低炭素な暮らしをおくる	10-⑥	リニア時代を見据えた生活環境保全	【評価できること】 ・リニア庁内打ち合わせ会議がしっかり行われている点。(木下容) ・リニア工事が着工される以前から、環境保全に向けて、様々な観測を地道に行っている。(木下容) ・大気測定、地下水・湧水等測定していること。(木下徳) ・井戸水調査、湧水調査、河川汚濁調査、大気汚染・騒音調査(後藤) ・生活環境保全に着目した点(木下克)
			【改善・修正が必要な点】 ・本当に生活環境が保全されているか不安視される。影響の有無を中心に測定する作業をスムーズに行われることが必要である。(湊) ・リニア中央新幹線工事などによる環境影響を確認するには、工事前の調査が不可欠であり、今の調査項目以外の必要項目の選定を常に心がける(木下徳) ・地下水・湧水・河川の汚濁、大気、騒音に加え、残土運搬ダンプの通過地域の生活環境対策(木下克)
			【新たな視点で追加すべき取組】 ・JR東海及び県との調整協議を確実に行ってください(重要視)(湊) ・長期間工事のため、定期的な環境チェック、住民への環境への配慮(小林) ・工事前にしておくべき、環境影響調査項目の確認。(木下徳) ・希少動物の観測も望む(後藤) ・ダンプ通過路線の通学路確保や一般車両等のよけ合い対策(木下克)